

EARTH ECO
MAIL MAGAZINE

アース・エコ メールマガジン

特定非営利活動法人
アース・エコ
メールマガジン No.10-19
2020年1月6日(小寒)

アース・エコ会員の皆様と、日頃からアース・エコの活動にご理解、ご支援をいただいている会員外の皆様にアース・エコの活動をお知らせするため、月2回、メールマガジンをお届けしています。

明けましておめでとうございます。本年も引き続き宜しく願い申し上げます。元日の朝は雲がかかり初日の出は見られませんでした。三が日も概ね晴天に恵まれ穏やかな正月でした。今年こそ災害がない穏やかな一年になることを祈ります。(右は二日の朝に写した写真です。)

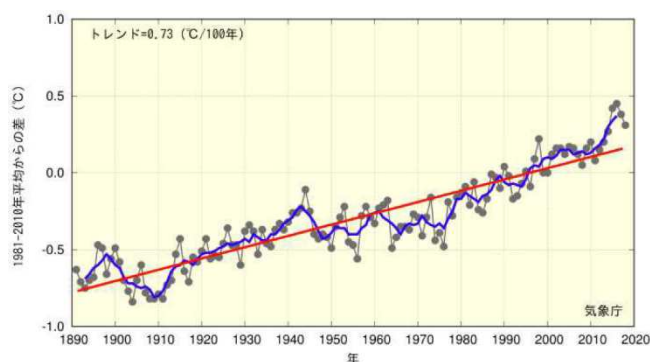


再び考える「地球温暖化」

2019年は猛暑、台風、大雨などがありこれに関連して地球温暖化(気候変動)も度々話題になりました。改めて気候変動とそれへの対応について考えます。

2014年に公表された国連の「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)第5次評価報告書(AR5)でも「気候システムの温暖化には疑う余地はない。」としています。観測データからも、世界の年平均気温偏差は100年につき0.73℃の割合で、日本も1.21℃の割合で上昇しています。地域や年ごとの気温にはゆらぎがありますが、数十年単位での平均気温の上昇は「気候変動」と考えられます。

世界の年平均気温偏差



気象庁：気候変動監視レポート 2018

気候変動の原因は完全には解明されていません。IPCCの報告書では人為起源の温室効果ガス(GHG)排出の増加が原因としており、世界気象機関(WMO)などもこれを支持しています。二酸化炭素には温室効果があるため関係している可能性が考えられますが、複雑な気候システムの中でGHG増加から気温上昇に至るメカニズムは完全には解明されていません。気候変動は自然現象とする説もあります。中世の温暖期(10～14世紀)、小氷期(14～19世紀半ば)の原因も

十分に解明されていません。原因が十分に解明されていないと言って、対策を考えることが無意味ではありません。人為起源の可能性が大きい以上、予防保全の意味から早期に対策に取り組むことは重要です。

気候変動を研究するために、物理法則と過去の気象観測結果に基づいて作られた「気候モデル」が使用されます。これを用いてスーパーコンピュータ上に作られた仮想の地球を「地球シミュレータ」と呼びます。気候モデルは過去の気候をよく再現できているものの限界もあり、特に気候変動の将来予測は不確実性を伴います。また、人口増加、経済成長、エネルギー消費などの社会的・経済的側面は気候変動にも影響しますが、将来にわたる正確な予測は困難です。気候変動の原因が人為的GHG排出だとしても、今世紀後半の気温上昇予測は不確実性が大きく、更に気温上昇の影響や被害の予測は困難を伴います。

2015年のCOP21で合意したパリ協定では、世界の平均気温上昇を2℃未満に抑え、1.5℃を目指すことが目標となりました。協議はIPCC報告書を基にしていますが、2℃、1.5℃などの数値には科学的意味はなく、政治的に合意した目標です。各国の削減目標は国際公約であり履行義務を伴います。また合意を



写真出典：気候変動枠組条約事務局

後押しするためにESG、ダイベストメント、TCFD等の経済手法の導入が世界的に進んでおり経済分野にも影響しています。

気候変動による影響を減らすために人為的GHG排出を削減する方策を「緩和策」と言います。目標達成の過程として、今世紀後半に人為的GHG排出を実質ゼロにする必要があるとされます。そのためにエネルギー利用効率向上やGHG排出を伴わないエネルギー利用などの技術開発が国や企業に求められます。目標達成を後押しするためのカーボンプライシング等の政策も有効とされます。

私たち市民にできることとして省エネ実践は重要であり、その他にも環境政策を重視する政党や候補者への投票や、環境経営に積極的な企業の商品の積極購入も大切ですが、その効果は限定的です。

気候変動の主原因が人為的GHG排出ではない可能性も否定できません。その場合、今の取り組みは無意味でしょうか。現在はエネルギーの大半を化石燃料に依存しているため、気候変動以外にも大気汚染、酸性雨、海洋酸性化など、化石燃料の燃焼は様々な環境問題を起こしています。プラスチック海洋汚染の問題も源流は石油の利用にあります。日本は原油の多くを政治的に不安定な中東に依存しており、エネルギー安全保障や貿易収支の問題もあります。

そもそも化石燃料は有限な資源であり、持続可能な開発目標(SDGs)の考えとは相容れません。化石燃料への依存からの早期に脱却するためにも、省エネ実践と再生可能エネルギーへの早期転換は重要です。

気候変動の原因が何であれ気温上昇が続くならばそれへの備えが必要ですが、これを「適応策」と呼びます。防潮堤や堤防のかさ上げなどの防災対策や高温に適した農産物の品種改良は国や企業の役割です。

今後、気象災害が増えるかどうかはともかく、災害

から生命・身体を守るための備えは重要です。集中豪雨や台風の大雨による洪水や、局地的大雨による内水氾濫が発生した時に想定される被害をハザードマップなどで事前に調べ、対策を考える必要があります。また避難の必要性や避難のタイミングを知るには予報や警報などの情報が不可欠で、情報入手の方法を知ることが大切です。最近の事例では停電対策も重要です。この他にも熱中症対策や感染症対策などがあり、いずれも日頃からの備えが大切です。



台風第15号で壊れた横浜市金沢区の護岸

国土交通省関東地方整備局ホームページより

気候変動の主原因が人為的GHG排出としても、GHG排出量を削減し実質ゼロを達成するには数十年かかり、更にもその効果が確認できるのはそこから30年先と言われます。いたずらに危機感をあおる時流に惑わされず、地道で継続的な努力が大切です。また気象災害から生命・身体を守る方法など、日ごろからの備えも必要です。

気候変動の原因が何であれ、エネルギー消費に依存する現在のライフスタイルを改め、化石資源への依存度を下げることは大切です。持続可能な社会を実現するために、気候変動に限らず、フードロスやプラスチック海洋汚染対策など、私たちの日常生活で取り組める課題に対して行動を起こしましょう。 [桑原]

これからの活動予定

- ◇ 1月14日(火) かながわ環境学校④、横浜市緑区内の小学校
- ◇ 1月20日(月) かながわ環境学校⑩、相模原市緑区内の小学校
- ◇ 1月21日(火) かながわ環境学校⑦、葉山町内の小学校
- ◇ 1月22日(水) KISTECなるほど！体験出前教室④、平塚市内の小学校
- ◇ 2月4日(火) 学校出前授業、横浜市青葉区内の小学校
- ◇ 2月8日(土) 厚木市環境市民学習講座、厚木市役所
- ◇ 2月12日(水) かながわ環境学校⑥、横浜市泉区内の小学校

1月の例会・勉強会

1月8日(水)13:30-16:30
かながわ県民センター会議室
会員外の皆さんも、例会・勉強会やほとんどの活動を見学することができます。詳しくは事務局にお問合せください。

◇ 2月19日(水)、20日(木) かながわ環境学校③、葉山町内の小学校

上記は計画が確定していないものを含みます。詳しくは事務局にお問合せください。 earth.eco.jimukyoku@gmail.com

アース・エコ メールマガジンのバックナンバーは↓からご覧いただけます

<http://www.kiykuwahara.com/page03/page03.html>

地球温暖化やボランティア活動に関心のある方

私たちと一緒に活動しませんか？

アース・エコの活動に参加してみませんか。例会・勉強会の見学も歓迎します。事前にメールでお問い合わせください。⇒ info@npo-earth-eco.com

会員募集中！

アース・エコ

検索



私たちの活動は皆さまからのご寄附で支えられています

アース・エコへの寄附は「よこはま夢ファンド」にお申し込みください。インターネットまたは郵送・ファクス・Eメールでお申込みの際に、支援したい団体に「アース・エコ」をご指定ください。税の優遇措置が受けられます。

⇒ <http://www.archive.city.yokohama.lg.jp/shimin/>

アース・エコは地球温暖化防止活動に取り組むボランティア団体です。

ホームページ <http://www.npo-earth-eco.com>

お問い合わせ、お申込み、メルマガ配信希望・配信中止のご連絡はこちらまで info@npo-earth-eco.com